ＩＳＳＮ 0285－4767

北海道考古学会だより

第　112　号
２０１５．７．31

目　次

第１回北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞表彰式……1
2015年度　北海道考古学会第52回総会報告……2
2015年度　研究大会報告「『サハリン・千島ルート』再考」……8
遺跡見学会のご案内……9
北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の募集ついて……10
月例研究会のお知らせ……11
各種委員の選任について……11
事務連絡……12
新入会員のお知らせ……12
会費納入についてのお願い……12
会誌編集委員会からのお知らせ……12

第１回北海道考古学会賞を北構保男氏、奨励賞を大坂拓氏に贈呈

５月９日、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟１階W103教室にて、第１回北海道考古学会賞ならびに北海道考古学会奨励賞の表彰式が行われました。

北海道考古学会は2013年、発足50周年を迎えたのを機に北海道考古学会賞、北海道考古学会奨励賞を創設しました。この目的は、今日まで会を支えてこられた方々を顕彰し、またこれから会を支えてくださる方を発掘することにあります。大谷副会長を選考委員長とする選考委員会が複数回実施され、自薦他薦の応募から北海道考古学会賞は北構保男氏に、奨励賞は大坂拓氏に贈呈されました。なお表彰式は、北構氏は欠席のため根室市歴史と自然の資料館学芸員の猪熊樹人氏が代理で受賞されました。

北構保男氏　2008年
根室市弁天島にて

大島会長から表彰される
大坂拓氏

授賞理由（要旨）は次の通りです。

表彰理由

北構保男氏　北構氏は1918（大正７）年に根室市に生まれ、中学時代から考古学を志し、國學院大學に入学後本格的に北方地域の古代文化の研究を開始されました。1941（昭和16）年、國學院大學を卒業後、大東亜省及び文部省民族研究所で研究活動を行い、終戦後、根室市に帰郷し、印刷会社を経営しながら、「オホーツク文化の解明」を目的に根室地方の遺跡調査に取り組まれます。調査には東京教育大学などの国内外の研究機関、研究者も参加し、オホーツク文化研究を推進されました。その学問領域は、民族学や海外文献の翻訳に及び、1991（平成３）年には自身の研究成果を集大成した『古代蝦夷の研究』（雄山閣）を上梓、國學院大學より文学博士の学位を授与されました。

また、埋蔵文化財保護に対する体制が未整備の段階から埋蔵文化財の記録保存のため若い学徒と発掘

調査を担われました。1971（昭和46）年以降、北海道文化振興審議会委員、北海道文化財保護審議会委員を歴任し本道の文化財保護に貢献されました。北海道考古学会においても、発足から活動確立期に多大な指導・援助を行われ、また長く顧問として後進の育成に携わってこられました。

大坂　拓氏　大坂氏は北海道生まれ、明治大学大学院を修了され、現在は北海道博物館に勤務されています。氏は縄文文化晩期から弥生・続縄文文化の土器編年を中心とした研究を進められています。研究を特徴づけているのは、一括資料・層位資料を基準とし、それをもっとも矛盾なく説明する型式区分・変遷を考究する姿勢です。また広域編年上の位置づけをつねに意識した研究を、多くの資料の観察・実測作業とともに積み上げられてきました。その結果、東北の縄文晩期後葉などにより有効な型式の認定基準が存在する点、また、恵山式の広域編年上の位置づけなど編年理解に地域的なズレがあることを指摘されています。氏が提起する年代軸で地域間の交流を考えるとき、新たな歴史理解に到達できる潜在的な可能性が生まれてきており、将来の刺激的な研究展開がおおいに期待されるところです。

2015年度　北海道考古学会第52回総会報告

５月９日12時より、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟１階W103教室にて本年度の定期総会が開催されました。会員数360名に対し、本人出席65名、委任状出席69名、合計134名で、総会成立要件である会員数の５分の１以上の出席を得たため、総会は成立しました。議長には第２地区の石橋孝夫会員を選出し、下記の議案について審議されました。この結果、下記の原案通り承認されましたのでご報告いたします。

１号議案　2014年度会務報告

（1）事業報告

ア　第52回総会・研究大会

期　　日：2014年５月10日
場　　所：北海道大学　学術交流会館
総　　会：2013年度会務報告、2014年度会務計画案
研究大会：テーマ「盛土遺構を掘る」

イ　運営委員会

回数	開催日	主たる議題
第１回	４月19日	運営委員業務担当など
第２回	６月21日	遺跡見学会・月例研究会など
第３回	７月19日	遺跡見学会・遺跡報告会など
第４回	９月20日	遺跡見学会・遺跡報告会・だよりなど
第５回	10月18日	遺跡報告会・だよりなど
第６回	１月15日	遺跡報告会・学会賞など
第７回	１月24日	学会賞・研究大会・だよりなど
第８回	２月21日	学会賞・研究大会・総会準備など
第９回	３月20日	役員改選・総会準備・研究大会など
第10回	４月18日	役員改選・総会準備・研究大会など

ウ　月例研究会

第１回：６月21日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①高瀬克範氏（北海道大学）、「ロシア平原における中石器の利用法－モスクワ州

域出土資料の使用痕分析－」

第２回：７月19日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W309教室）

①高橋美鈴氏（北海道埋蔵文化財センター）、「続縄文時代のガラス玉について」

②内山幸子氏（東海大学）、「北海道における古代以降の儀礼について」

第３回：９月20日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）

①大島直行氏（伊達市噴火湾研究所）、「ネリー・ナウマンと考古学」

②上奈穂美氏（国立歴史民俗博物館）、

「オホーツク文化の変容－斜里町カモイベツ遺跡の動物遺体の特徴」

第４回：10月18日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）

①榊田朋広氏（札幌市埋蔵文化財センター）、「北海道縄文時代中期後半～後期初頭の土器片加工品をめぐる一考察－札幌市Ｓ354遺跡出土資料の観察から－」

第５回：11月15日（北海道大学大学院文学研究科１階100室）

①内田和典氏（北海道教育委員会）、「極東地域の前期新石器時代の土器研究－アムール流域・沿海地域・サハリンを中心に－」

第６回：１月24日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）

①高瀬克範氏（北海道大学）、「初めて明らかになったＴ.Ｍ.ヂコヴァ、Ｎ.Ｎ.ヂコフ・コレクションの内耳土器の全体像とその意義」

第７回：２月21日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）

①宮塚義人氏（(有)宮塚文化財研究所）、「気候変動と北海道の遺跡　－環境考古学的アプローチ－」

第８回：３月21日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）

①佐々木進輔（北大４年）、「続縄文期後半における住居址未検出の要因について－炉址構造の分析による－」

②小田島賢（札幌国際大４年）、「十勝における遺跡変遷」

③渡邉つづり（北大院・Ｍ２）、「東日本における鉄斧の研究」

エ　遺跡見学会

期　日：８月30日(土)

場　所：恵庭市・千歳市

テーマ：恵庭市・千歳市の遺跡発掘現場と資料館展示室を見る

参加者：23名

オ　遺跡調査報告会

期　日：12月13日(土)

場　所：北海道大学文系講義棟１階６番教室

内　容：道内遺跡の発掘調査の紹介・質疑

カ　連絡紙『北海道考古学会だより』の発行

109号：７月14日発行

110号：11月７日発行

111号：２月27日発行

キ　学会ホームページ

2015年３月まで（12ヶ月間）更新回数：17回

ク　会誌編集委員会の活動

会誌『北海道考古学』第51輯の発行（2015年３月発行　500部）

ケ　特別委員会の活動

遺跡保護特別委員会を設置する

（2）2014年度収支決算報告

収　入

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,600,000	1,505,000	▲ 95,000	2015年度会費…5,000円×175件 滞納会費…5,000円×96件 2016年度以降会費…5,000円×15件
事業収入	研究大会収入	90,000	105,000	15,000	研究大会資料集販売 105部×1,000円
	遺跡見学会収入	200,000	113,000	▲ 87,000	
	遺跡調査報告会収入	100,000	94,000	▲ 6,000	遺跡調査報告会資料集販売 94部×1,000円
	会誌等販売収入	80,000	125,940	45,940	会誌・資料集販売
	小　計	470,000	437,940	▲ 32,060	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		244	47	▲ 197	利息
繰越金		1,591,756	1,741,756	150,000	
基金繰入金	特別収入	0	0	0	
特会収入	特別会計収入	0	0	0	
合　計		3,662,000	3,684,743	22,743	

支　出

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	残(▲超過)額	備　考
事業支出	研究大会費	450,000	465,252	▲ 15,252	要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等
	遺跡見学会費	145,000	121,094	23,906	貸し切りバス等／振込み手数料
	研究会費	60,000	35,464	24,536	案内発送、研究会共催費、発表者交通費
	遺跡調査報告会費	390,000	356,436	33,564	資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等
	会誌印刷費	780,000	687,902	92,098	第51号　500部／振込み手数料
	だより印刷費	265,000	194,400	70,600	109号・110号・111号／振込み手数料
	ホームページ費	7,000	8,176	▲ 1,176	プロバイダー契約料、更新・維持管理費
	小　計	2,097,000	1,868,724	228,276	
事務支出	総会費	5,000	0	5,000	
	委員会費	150,000	133,900	16,100	運営委員会・編集委員会出席用交通費
	消耗品費	25,000	918	24,082	文房具代・コピー代等
	通信費	200,000	210,547	▲ 10,547	会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む
	賃　金	50,000	100,000	▲ 50,000	会誌・だより等の発送・その他事務処理（1ｈあたり1,000円×100ｈ）
	小　計	430,000	445,365	▲ 15,365	
特別支出		20,000	21,024	▲ 1,024	会費返金分
予備費		1,115,000	0	1,115,000	
合　計		3,662,000	2,335,113	1,326,887	

2014年度決算

項　目	費　目	予算額（A）	決算額（B）	差引額(B－A)	備　考
	収入総計	3,662,000	3,684,743	22,743	
	支出総計	3,662,000	2,335,113	▲1,326,887	
決算額差引	収入総計（B）－支出総計（B）			1,349,630	

2014年度北海道考古学会基金会計

項　　目	費　　目	支出額	基金積立額	基金総額	備　　考
基　　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	平成17年５月29日10,000円送金 平成18年３月22日10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	平成20年３月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
	50周年記念研究大会積立金		250,000	1,320,000	2012年度積立
	保存対策費積立金		100,000	1,420,000	2012年度積立(過年度支出分補填)
	保存対策費積立金		100,000	1,520,000	2013年度積立(過年度支出分補填)
合　　計				1,520,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		1,443,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		1,283,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		1,223,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		983,000	2003年度支出
	50周年記念研究大会費	250,000		733,000	2013年度支出
合　　計		787,000			
基　　金　　残　　高				733,000	

(3) 2014年度監査報告

北海道考古学会の2014年度会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

2015年５月９日　監査委員　千葉　英一　㊞
監査委員　園部　真幸　㊞

２号議案　2015年度会務計画

(1) 事業計画案

ア　基本方針

①　北海道考古学の発展のため、会誌の充実、大会・月例研究会・遺跡報告会・遺跡見学会などの積極的な開催を図る。

②　考古学研究を取り巻く環境が日々変化していく中で、諸課題に取り組むための「特別委員会」を設置するなど、研究環境の変化に機動的に対処しうる体制をとる。

③　だより・ホームページなどを通じて会の活動や研究成果を情報提供する。

④　会費納入の呼びかけと適正な予算執行により、財務基盤の安定化を図る。

イ　2015年度事業計画

①　研究大会

日　　時：2015年５月９日(土)　10：00－17：00
場　　所：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟１階W103教室
テ ー マ：「『サハリン・千島ルート』再考」
事例報告：福田正宏氏、熊木俊朗氏、手塚薫氏・大坂拓氏、高瀬克範氏
討　　論：司会　村本周三氏

②　遺跡見学会

日　　時：８月予定

③　遺跡報告会

日　　時：2015年12月12日（土）

場　　所：北海道大学学術交流会館　小講堂

④　**月例研究会**

開　　催：年８回、各回15時開始（予定）

時　　期：6/20、7/18、9/19、10/17、11/21、1/23、2/20、3/19（予定）

⑤　**会誌「北海道考古学」第52輯の発行**

発　　行：年１回

時　　期：2016年３月　500部発行

⑥　**連絡誌「北海道考古学会だより」の発行**

発　　行：年３回（第112号、第113号、第114号）

時　　期：７月、11月、２月

⑦　**ホームページの管理運営**

（2）2015年度予算案　　＊総会提出資料の中で一部誤りがありました。下記が正当分です。

収　入

項　目	費　目	2015年度予算額(A)	2014年度決算額(B)	増 ▲減	備　考
会　費	会　費	1,500,000	1,505,000	▲ 5,000	5,000円×300件
事業収入	研究大会収入	100,000	105,000	▲ 5,000	研究大会資料集販売 100部×1,000円
	遺跡見学会収入	200,000	113,000	87,000	4,000円×50名（貸切バス１台）
	遺跡調査報告会収入	100,000	94,000	6,000	遺跡調査報告会資料集販売 100部×1,000円
	会誌等販売収入	80,000	125,940	▲ 45,940	会誌・資料集販売
	小　計	480,000	437,940	42,060	
広告料収入		0	0	0	
雑　入		370	47	323	利息など
繰越金		1,349,630	1,741,756	▲ 392,126	
基金繰入金		0	0	0	
特会収入		0	0	0	
合　計		3,330,000	3,684,743	▲ 355,066	

支　出

項　目	費　目	2015年度予算額(A)	2014年度決算額(B)	増 ▲減	備　考
事業支出	研究大会費	450,000	465,252	▲15,252	要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等
	遺跡見学会費	145,000	121,094	23,906	貸し切りバス等／振込み手数料
	研究会費	60,000	35,464	24,536	案内発送、研究会共催費、発表者交通費
	遺跡調査報告会費	390,000	356,436	33,564	資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等
	会誌印刷費	780,000	687,902	92,098	第52輯　500部／振込み手数料
	だより印刷費	200,000	194,400	5,600	112号・113号・114号／振込み手数料
	ホームページ費	300,000	8,176	291,824	HPリニューアル、プロバイダー料、維持管理費
	小　計	2,325,000	1,868,724	456,276	
事務支出	報償費（総会費）	50,000	0	50,000	学会奨励賞
	委員会費	150,000	133,900	16,100	運営委員会・編集委員会出席用交通費
	消耗品費	40,000	918	39,082	文房具代・コピー代・賞状・筒
	通信費	250,000	210,547	39,453	会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む
	賃　金	100,000	100,000	0	会誌・だより等の発送・その他事務処理
	小　計	590,000	445,365	144,635	

項　　目	費　　目	2015年度予算額(A)	2014年度決算額(B)	増 ▲減	備　　考
特 別 支 出		20,000	21,024	▲1,024	
基金積立金		60,000	0		60周年用積立金
予　備　費		338,000	0	338,000	
合　　計		3,333,000	2,335,113	937,887	

2015年度北海道考古学会基金会計

項　　目	費　　目	支出額	基金積立額	基金総額	備　　考
基　　金	名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000	
	佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
	北構保男氏寄付金		20,000	860,000	平成17年５月29日10,000円送金 平成18年３月22日10,000円入金
	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	平成20年３月31日10,000円入金
	臨時積立金		200,000	1,070,000	
	50周年記念研究大会積立金		250,000	1,320,000	2012年度積立
	保存対策費積立金		100,000	1,420,000	2012年度積立（過年度支出分補填）
	保存対策費積立金		100,000	1,520,000	2013年度積立（過年度支出分補填）
	60周年記念研究大会積立金		60,000	1,580,000	2015年度積立開始（年60,000円）
合　　計				1,580,000	
過年度支出	南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金	77,000		1,503,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	160,000		1,343,000	2003年度支出
	鷲の木５遺跡保存対策費	60,000		1,283,000	
	40周年記念研究大会費	240,000		1,043,000	2003年度支出
	50周年記念研究大会費	250,000		793,000	2013年10月支出
合　　計		787,000			
基　　金　　残　　高				793,000	

３号議案　委員および委員会規則の改正について

（旧）第５条　地域委員の定数は、別表１に定める地域毎に１名とする。ただし、事務局所在地区および近隣地域からは選出しない。運営委員は別表２に定める業務を担当し、16名とする。

↓

（新）第５条　地域委員の定数は、別表１に定める地域毎に１名とする。ただし、第１地区および第２地区からは選出しない。運営委員は別表２に定める業務を担当し、16名とする。

４号議案　新入会員取扱規則の改正について

（旧）第４条　入会者は、入会年度に限り次の資料を受領することができる。

イ　会則。

ロ　会員名簿。　→削除

ハ　当該年度発行の「だより」。

ニ　当該年度作成の「事業案内」。ただし、申し込み時に終了した事業は除く。

ホ　前年度発行の「会誌」

↓

（新）第４条　入会者は、入会年度に限り次の資料を受領することができる。

イ　会則。

ロ　当該年度発行の「だより」。

ハ　当該年度作成の「事業案内」。ただし、申し込み時に終了した事業は除く。

ニ　前年度発行の「会誌」

５号議案　運営委員・地域委員・監査委員の改選について

北海道考古学会会則第６条および規則２－１第２条・第３条に基づき、運営委員、地域委員および監査委員について会員による推薦と投票の結果、以下のように改選を行いました。なお、総会後、運営委員は互選により役務分担を行いました。

運営委員

会長：大島直行、副会長：澤井玄、総務：高瀬克範・菅野修広、会計：酒井秀治・大坂拓、会誌編集：小野裕子・永谷幸人、だより：永谷幸人、研究会：村本周三・高瀬克範・大坂拓、見学会：鈴木将太・坂梨夏代、遺跡報告会：坂本尚史・田代雄介

地域委員

第３地域　小川康和（新任）、第４地域　大谷茂之（新任）、第５地域　三谷智広（再任）、第６地域　森久大（再任）、第７地域　林勇介（再任）、第８地域　猪熊樹人（新任）、第９地域　冨樫那美（新任）、第10地域　出穂雅実（再任）

監査委員

園部真幸（再任）、工藤義衛（新任）

2015年度研究大会報告　「『サハリン・千島ルート』再考」

2015年度の研究大会「『サハリン・千島ルート』再考」は、北海道大学人文社会科学総合教育研究棟W103教室において開催された。当日は、会員65名、一般参加者27名の計92名の参加をえた。この研究大会では、北海道の先史文化の形成に一定の影響力をもっていると考えられてきたサハリン島を経由する文化回廊（「サハリンルート」）と千島列島を経由する文化回廊（「千島ルート」）の今日的評価について、ロシアにおける研究進展をふまえて再検討するという趣旨が説明されたのち、各発表者からの報告が行われた。報告者は、**福田正宏氏**（新石器時代～続縄文文化前半並行の「サハリンルート」を担当）、**熊木俊朗氏**（続縄文文化後半並行以降の「サハリンルート」を担当）、**手塚薫氏・大坂拓氏**（「千島ルート」を担当）、**高瀬克範**（オホーツク海沿岸・カムチャツカ半島と北海道との関係を担当）の計５名である。当日の司会は、討論をふくめて**村本周三氏**が担当した。

福田氏は、北海道・サハリン間の文化交流がもっとも想定しやすいと思われる縄文早期の石刃鏃文化および続縄文前半期を最新のデータをもとに詳しく掘りさげたうえで、サハリンから北海道への文化要素の流入はあくまでも一時的なものにすぎず、北海道では大陸に由来する社会構造変動は一度も生じていないとの結論が紹介された。「サハリンルート」を介した大陸と北海道間の関係はあくまでも「ゆるやかな」間接的関係にとどまっており、これは中間に存在するサハリンが両者の関係をうすめる「緩衝地帯」としての役割を果たしていたためであったと総括されている。

熊木氏は、続縄文期以降の考古学的文化の年代を整理したうえで「サハリンルート」を検討した結果、続縄文文化後半期と擦文文化期はサハリン・北海道間の交流をしめす証拠はかなり少ないことを指摘した。いっぽうで、オホーツク文化に関しては両地域の交渉を物語る証拠が相対的に多く、とくに最近は十和田式期におけるオホーツク集団と続縄文集団とのあいだの交流をしめす新たな事例が増えてきている点が注目されるという。よりマクロにみれば、オホーツク文化期といえどもサハリンが「緩衝地帯」となっていたため北海道とアムール川下流域との直接的な交流はあったとしてもまれで、北海道とサハリンのあいだの相対的に密接な関係は現在の資料からも支持されるとの結論が述べられた。

「千島ルート」にかかわる**手塚氏・大坂氏**による報告では、1994年からの２つの国際研究プロジェクト（IKIP、KBP）によって、適応がとくに難しい中千島・北千島では続縄文文化前半期、オホーツク文化期刻文期、アイヌ文化期の３つの時期に人類の居住痕跡が集中していることが明らかにされ、断絶的な居住の要因と適応方法の時期によるちがいを探ることが重要な課題になってきている点が解説された。そのためには遺存体や石器の分析だけでなく、生物地理学的な観点からの分析やネットワーク分析も有効であることが、いくつかの実例とともにしめされた。また、2007年のKBPによる中千島における調査成果についても、スライドで紹介がおこなわれた。

最後の**高瀬**報告では、カムチャツカ半島やオホーツク海北岸まで視野を広げたとしても、少なくとも完新世においては「サハリンルート」や「千島ルート」が北海道の先史文化の形成にとって決定的に重要な役割を演じたとは積極的に認めることはできないとの見解が提示された。また、過去2500年ほどの「サハリンルート」「千島ルート」の変遷を概観すると、カムチャツカ半島南部の閉鎖性が顕著であることにより、オホーツク海沿岸部の交流ルートは環状を呈していたというよりは、構造的に北岸・南岸の二つにわかれていたと考えたほうが実態をより反映しているとの見通しが述べられた。

今回のセッションにより、北海道の先史文化の形成や変遷を説明するにあたって、先史文化回廊としての「サハリン・千島ルート」に過剰な期待をかけることができないことが明確になった。対照的に、「本州（東北）ルート」がいかに北海道に大きな影響をあたえた交流路であったのかも奇しくも浮き彫りとなった。ただし、サハリン・千島においてはそれぞれの考古学的な課題も山積しているため、この研究会で整理された問題点が５年後、10年後にさらに解決にみちびかれていることが期待される。討論部分をふくむより詳しい記録は、次号の会誌52輯に掲載予定である。（文責　高瀬克範）

遺跡見学会のご案内

毎年恒例の遺跡見学会、今年度は「厚真町の遺跡発掘調査現場と新ひだか町・新冠町」をテーマとして、現在厚真町で発掘調査中のオコッコ１遺跡（盛土遺構を調査中）の見学と今春オープンした新ひだか町博物館や新冠町郷土資料館などの見学を行います。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

主　　催　北海道考古学会
期　　日　８月29日（土）　雨天決行
集合場所　札幌駅東通り北口（観光バス乗り場前）　　集合時間　９：00
見学コース　JR札幌駅北口（９：00）⇒道央自動車道経由で千歳市へ
⇒午前：北海道埋蔵文化財センターが調査中の遺跡（厚真町オコッコ１遺跡）見学
⇒昼食：新冠町（新冠温泉レコードの湯レストランパティオ）
⇒午後：新冠町郷土資料館・新ひだか町博物館など見学
⇒札幌市へ⇒ＪＲ札幌駅（18時00分頃到着予定）
＊天候・道路・現場の状況により行程を変更する場合があります。ご了承下さい。
参加費用　大人4,000円、中学生以下2,000円（バス代、入館料、保険料込み）
＊当日申し受けます。
＊別途、昼食（和食）を注文することができます。1,000円の予定です。申し込み時に「昼

食希望」と明記して下さい。

募集人数　先着順45名（予定）

申込方法　往復葉書かメールで。電話受付は致しません。申込受付後に受付確認をいたします。確認連絡がない場合はご連絡ください。

①往復葉書の場合

＜往信部表面＞　〒059-0014　登別市富士町７丁目33-1
登別市教育委員会　社会教育グループ気付

＜往信部裏面＞　郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号

＜返信部表面＞　返信用の郵便番号・住所・氏名

＜返信部裏面＞　何も記入しないでください。

②メールの場合

hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jpに郵便番号、住所、氏名（同行者名も）、自宅電話番号、携帯電話番号を記入し、送信してください。

申込期限　８月20日（木）　当日の消印有効。

キャンセル　葉書かメールで。８月24日（月）以降のキャンセルは、下記問い合わせ先にお電話ください。

問い合せ先　月～金の18：00～20：00のみ。
見学会担当：鈴木（090-5079-6141）・坂梨（090-2251-4257）まで。

服装・お持ちいただく物　新冠温泉レコードの湯レストランパティオでお食事なさらない方は、昼食を持参してください。なお、レストランパティオは持ち込みができませんので、バス等で食事願います。ご了承下さい。また、歩きやすい服装・靴でお越しください。その他、帽子、飲み物、常備薬、虫よけ、筆記用具などお持ちいただくことをお勧めいたします。

北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の募集ついて

北海道考古学会規則第５号にもとづき、下記の要領で北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の候補者を募集します。

１．北海道考古学会賞

趣旨：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）の研究、もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体の功績を称える。

候補者の要件：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）の研究、もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体（所属会員の有無を問わない）。

２．北海道考古学会奨励賞

趣旨：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）の研究に大きく貢献した若手研究者の研究活動を奨励する。

候補者の要件：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）において優れた研究を行い、将来の発展に貢献すると期待される満40歳未満（受賞年の４月１日現在）の会員。

３．応募・選考方法（北海道考古学会賞・同奨励賞とも）

(1) 自薦および他薦とする。

(2) 締切　2016年１月30日（必着）。

(3) 所定の応募用紙を学会ホームページからダウンロードし､学会事務局あてに郵送もしくは電子メールで送付する。

【送付先】北海道考古学会事務局

〒059-0014　登別市富士町７丁目33-1　登別市教育委員会　社会教育グループ気付
【電子メールアドレス】hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp

(4) 北海道考古学会賞選考委員会（副会長、運営委員２名、一般会員２名から構成）が、応募書類をもとに各賞の趣旨に沿って業績を総合的に判断して選考する。

４．その他

(1) 北海道考古学会奨励賞受賞者に授与される研究奨励費は５万円とする。
(2) 受賞式出席にともなう交通費は支給しない。
(3) 応募書類は返却しない。
(4) 個人情報は、各賞の選考以外の目的で使用しない。

＊学会賞の規則は北海道考古学会ホームページ「学会案内・組織」欄または「だより」109号を参照ください。

月例研究会のお知らせ

【今後の予定】

【第３回】９月19日（土）　15：00～、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W309教室
大島直行（当会会長）「縄文時代は「定住」社会なのか？」

【第４回】10月17日（土）　15：00～、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W517教室
内容未定

【第５回】11月21日（土）　15：00～、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W517教室
三谷智広（洞爺湖町教育委員会）　内容未定

【第６回】１月23日（土）　15：00～、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）（教室未定）
内容未定

【第７回】２月20日（土）　15：00～、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W517教室
内容未定

【第８回】３月19日（土）　15：00～、北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W517教室
卒業論文・修士論文発表会、内容未定

※内容などの詳細は、決定次第、北海道考古学会ホームページでお知らせいたします。
※会員の皆様で、月例研究会での研究発表を希望する方は北海道考古学会事務局（hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp）までご一報ください。

各種委員の選任について

2015年度の各種委員会の委員について、関係する規程に基づき下記の通り選任されました。委嘱された委員の皆さま、よろしくお願いします。

会誌編集委員

１号委員　臼杵勲（委員長：再任）、越田賢一郎（副委員長：再任）、石橋孝夫（再任）、角田隆志（再任）、宮塚義人（新任）
２号委員　小野裕子（新任）、永谷幸人（新任）

北海道考古学会賞・奨励賞選考委員

委員長：澤井玄（学会副会長）、委員：（一般会員から２名）上野秀一・西脇対名夫・（運営委員から２

名）高瀬克範・菅野修広

遺跡保護特別委員会
委員長：熊木俊朗（再任）、２号委員：菅野修広（新任）

新入会員のお知らせ

富塚　龍（札幌市）、長沼正樹（札幌市）、夏木大吾（北見市）、山戸大知（厚真町）
＊敬称略・アイウエオ順

会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号：02770－６－8358　　加入者名：北海道考古学会
年会費：（一般）5,000円　　（学生）3,500円

会誌編集委員会からのお知らせ

会誌第52輯の原稿を募集しています
『北海道考古学』第52輯（2016年３月刊行）は特集を組まず、一般号を予定しています。皆様からのご投稿をお待ちします。原稿の締め切り日は下記のとおりですが、投稿を希望する方は、編集の都合上、10月30日（金）までに会誌編集委員会事務局まで連絡をお願いいたします。原稿の分量・体裁等は、学会ホームページまたは『北海道考古学』第51輯（2015年３月）巻末をご参照ください。

原稿締め切り日　2015年12月25日（金）（必着）
会誌編集委員会事務局　〒069-8555　江別市文京台11
札幌学院大学　臼杵研究室
TEL：(011)386-8111（代表）
E-mail：usu@sgu.ac.jp

北海道考古学会だより　第112号　2015年７月31日　発行
発行所　北海道考古学会（ホームページ：http://www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局：〒059-0014　北海道登別市富士町７丁目33-1
登別市教育委員会　社会教育グループ気付　北海道考古学会事務局
TEL　：(0143)88-1129
FAX　：(0143)85-9744
E-mail：hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp
印　刷　北海道図書企画　(011)668-1131